


第3回海洋ワーキンググループ会議

H17年度
知床海棲哺乳類回遊調査業務



特定非営利活動法人
北の海の動物センター

調査概要 I

斜里・ウトロ側

- これまで海生哺乳類と漁業に関わる調査はほとんどない。
流水期の航空機センサス調査 (1996年山中ら, 2008年水野ら)
- 海生哺乳類来遊時期の主な漁業は、サケ・マスの定置網漁業である。

↓

- 混獲調査・漁業被害調査
・各定置網にアンケート調査
⇒混獲や漁業被害の有無についての把握
- サケ・マス漁の被害調査
・漁協の協力のもと、過去の傷の痕のデータを収集
⇒定置網の位置や他地域との比較
- 流水期の個体数調査
・ヘリセンサス(予定)
⇒個体数推定、過去との比較

調査概要 II

羅臼側

- これまで、海生哺乳類と漁業に関わる断片的な調査のみ。
季節ごとの海生哺乳類の来遊数・混獲数、海生哺乳類による漁業被害を調査して、
1)この海域の季節ごとの関係を明らかにする
2)今後のモニタリング方法の確立

調査時期: 2005年10月～2006年8月、各月7日間ほど

- 来遊個体数調査
・船によるライントランセクト調査
・陸からの定点調査 } 各方法の関係を把握する
- 混獲・漁業被害調査
・漁法・魚場ごとに限定した漁業者にお聞きして、漁業被害を見せてもらい混獲があれば撮影を収集、また混獲個体も可能な限り回収する
・混獲個体から、年齢(性)・食性(胃内容)・繁殖履歴(生殖器)・系統(DNA)等を調べ季節ごとの特性を把握する
